



2024年度 視察セミナーを開催しました！

去る10月22日(火)～24日(木)の日程で、2024年度 書店研究会 視察セミナーを開催しました。

書店研究会員6名のご参加をいただき、2019年以来5年ぶりの海外視察として、ソウルの書店や図書館、出版都市・坡州を巡り、韓国の出版事情や国の支援体制など、見学を通して他国の実態を学びました。以下、視察の様子について、詳しくご報告いたします。

1.韓国の出版事情 / 国の支援について

基礎知識 (1) 日本と韓国の違い 【①人口 / 書店数 / 市場規模】

韓国	比較項目	日本
2023年 5,156万	人口 (人)	2023年 1億2385万
2019年 2,320 2021年 2,528 2023年 2,484	書店数 (軒)	2019年 9,242 2020年 8,789 2021年 8,642 2022年 8,169
2022年 75,324 ※発行実績のある出版社 9,281社	出版社数 (社)	2020年 2,908
2022年 紙 5,573億 電子 905億	市場規模 (円)	2023年 紙 1兆612億 電子 5,351億
オンライン書店53.1% 書店46.9%	取引シェア	書店58.2% CVSなどその他21.4% オンライン20.5%

Point 1

人口は日本の約5割、紙の市場規模も4割程だが、書店数は2割と、人口・市場に対して書店数が少ない。
→大手書店の影響が大きい

Point 2

韓国もCVSで書籍を扱っているが、全体に与える影響は小さい。

その他

- ・2015年頃から出版社の登録が容易くなり、従業員数が5人以下の「ひとり出版社」が増加したため、世界的に見ても出版社数が多い。
- ・市場を大きく占めるジャンルは教科書や学習参考書で、雑誌や文庫・新書は発達していない。

○日本

人口：総務省統計局「人口推計」(2024年)
書店数、取引シェア：日販「出版物販売額の実態2023」(2023年)
出版社数：総務省、経済産業省「2020年経済構造実態調査」(2021年)
市場規模：BookLink「2023年出版市場(紙+電子) 前年比2.1%減の1兆5963億円、2年連続マイナス 電子コミックのみ7.8%増」(2024年)

○韓国

人口：外務省「大韓民国基礎データ」(2024年)
書店数、出版社数、市場規模：韓国出版文化協会「2023年韓国出版市場の統計報告書」(2024年)
取引シェア：韓国→K-Book Trends「韓国の出版市場と流通構造」(2019年)

1. 韓国の出版事情 / 国の支援について

基礎知識 (1) 日本と韓国の違い 【② 制度】

韓国	比較項目	日本
図書定価制 (出版文化産業振興法)	価格	再販売価格維持制度
免税	税	消費税10%
出版社直取引が中心 雑誌/教科書/書籍で 流通経路が異なる	流通経路	取次を介した 雑誌・書籍の一元的流通
委託販売	販売条件	委託販売

Point 1

図書定価制では[最大15%までの割引が可能](#)。
→1990年代から値引販売が横行していたことから制定。
改正を重ね、すべての書店や図書が対象となった。

Point 2

「国民のための必需品」として、
農産物や医療などと共に[免税指定](#)。(1977年)

Point 3

「書籍流通」においては、韓国も取次を介すルートが存在。
→量がまとまらない場合や地方書店に限られ、
[直取引が流通量全体の半分を占める](#)。

その他

大企業が書店業に参入できない法律
(小商工人生計型適合業種指定に関する特別法) や、
地域書店の減少防止や動力確保を行う法律
(地域書店の定義と要件新設と地域書店活性化支援)
を制定し、状況に合わせて法整備を行っている。

<参照>

価格：経済産業省商務情報政策局「国内外の書店の経営環境に関する調査」(2023年)

税：白根源基調講演「韓国の書店支援政策について」(2024年)

流通経路、販売条件：マネー現代「日本と韓国のコミックに違いをもたらした「意外なもの」」(2024年)

1. 韓国の出版事情 / 国の支援について

基礎知識 (1) 日本と韓国の違い 【③ 国の支援】

1 韓国出版文化産業振興院

日本の文化庁、観光庁、スポーツ庁に当たる政府機関、「文化 体育観光省」の下部組織。
出版文化産業の振興・発展を国が効率的に支援・育成する。

→全国88か所の地域書店を対象に年間約4500万円を投じ、書店が進める文化プログラムの支援や、魅力的な本棚を作る事業などを展開。書店運営のためのセミナーも用意している。

例) ・地域書店での本の購買クーポンを提供する「青少年ブックトークン支援」
・地域書店のPOSレジ導入および地域書店ポータルサイト運営を支援

2 自治体単位での条例制定と予算支援

ソウルは2016年に地域書店活性化条例を先駆けて制定。
それにより、様々な自治体で予算支援の動きが広がっていった。

例) ・公共図書館による地域書店経由の蔵書購入制度
・ソウル図書館が敷地を開放し、書店がイベントを実施
・京畿道では地域貨幣による購買額の10%還元で購買促進
また、龍仁市では地域書店で貸し出し、利用後は公共図書館の蔵書にする「希望図書すぐ貸し出し制」を実施
・全羅南道順天市では図書館会員証保有で30%引き
(のちに書店に差額支援)の「全市民良い本支援事業」を実施

→自治体や書店組合も支援を行い、書店×図書館の連携事業も積極的に行われている。

< 参照 >

読売新聞「街の本屋、日本では減り続けるが…韓国では支援充実で増加傾向」(2023年)
一般財団法人出版文化産業振興財団「2023年韓国書店業界視察レポート」(2023年)
白根源基調講演「韓国の書店支援政策について」(2024年)

1. 韓国の出版事情 / 国の支援について

現地視察にて (1) 鍾路書籍 ソ社長より

韓国の出版事情に関する説明会実施



1日目 鍾路書籍

(韓国業界3位の老舗書店)

訪問時に代表理事社長 ソ・ブンド氏より韓国の出版事情や主要書店の収支構造について約1時間、説明機会をいただく。

視察後、ソ社長はじめ4名の幹部の皆様と会食・交流会を実施。



1. 韓国の出版事情 / 国の支援について

現地視察にて (2) 説明会内容

① 市場動向について

- ・ BOOKにおけるオフライン（リアル）とオンライン（EC）の販売内訳はほぼ1:1で同数
- ・ ECはAmazonではなく、書店のオンラインサイトから購入するケースが大半。（オンライン専門の書店も存在するが、オンラインから始めてリアル書店を開業したケースも。韓国にはEC経由での注文のみ10%ポイント付与ができるサービスがあり、ECの買上が普及している状況）
- ・ リアル・EC共に市場規模は前年より下がっているが、ECの方が落ち幅は小さく、いずれはECがリアルを上回る見込
- ・ 書籍の市場規模の内訳をみると、教科書・学参のシェアが大きい。市場規模は小さいが、マンガ（コミック）が大きく規模を上げられている。

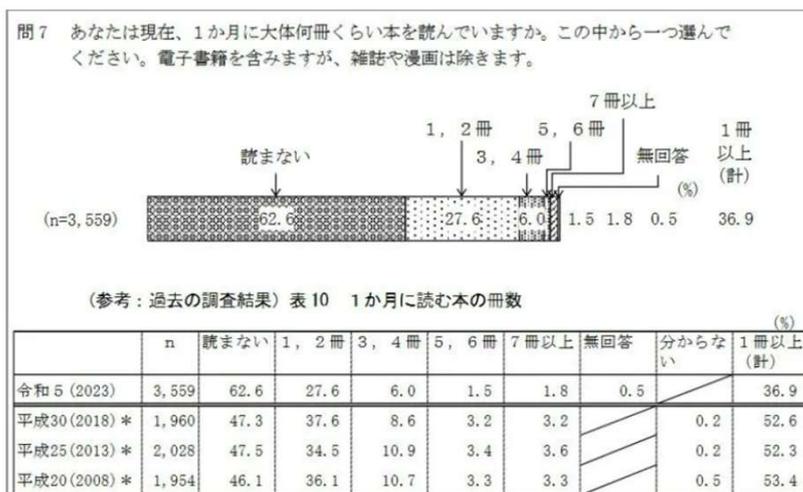
1. 韓国の出版事情 / 国の支援について

現地視察にて (2) 説明会内容

② 読書率について

- ・ 韓国の年間読書量は平均1.9冊
年に1冊でも読んだことのある人は人口全体の3割
- ・ 手段別成人年間読書率は紙32.3% 電子書籍19.4% オーディオブック3.7%

(参考) 日本：1ヶ月に1冊以上本を読む割合…37.4%



③ 流通構造について

- ・ コミック・雑誌・学参は出版社から代理店（取次）を經由して仕入れるケースが多い。原価は雑誌80%、コミック・学参は75%
- ・ その他書籍は出版社からの直仕入。
その場合、書店側が買切か委託かを選択できる。
(買切り選択する割合は全体の5~10%ほど)
- ・ オンライン書店が本を仕入れる際は直取引のケースが多い。
- ・ 配送はソウル市内については出版社 / 取次が負担しているが、市外については書店側が費用を負担する (1冊10円)。
- ・ 直取引分の配本は出版社が代行して実施。

1.韓国の出版事情 / 国の支援について

現地視察にて (2) 説明会内容

④ 主要書店の収支構造について

- ・ 韓国の主要書店における収支構造について
いずれも売上原価率は70～72%、粗利益率は28～30%
 - ↳ 書籍の売上原価が68%に対し、
雑貨が74～79%となっており、
雑貨は消化仕入方式にて販売しているケースが多い。
- ・ 国からの書店の運営支援という点では、セルフレジ導入における補助金やイベント開催時の資金支援などがある。

⑤ 図書館の支援について

a: イベント運営支援

ソウル図書館の外の広場では本に関するイベントを定期開催しており、書店が実施したいイベントを図書館に申請すると、著名人のアサインや会のコーディネートを受託するサービスがある。書店はそのイベントに出店して本を販売する。

b: 消費者からの蔵書として本の買取

韓国には読者が地域の中小書店で購入した本を図書館が蔵書として買い取る制度がある。

(大手書店は対象外)

→図書館と書店が連携して読書普及や地域のコミュニティとしての場づくりに繋げている

2.大手チェーン / 独立系書店の動き

①教保文庫 光化門店

業界一位の教保文庫は、圧倒的な品揃えと本を中心とした多種多様な商材を展開。訪問時は16時台にも関わらず店内が人に溢れていた。



BOOKは一般書からコミック・専門書まで幅広くラインアップ。

◀ 棚上段ではディスプレイを使った訴求がされており目を引く仕様に。

学習参考書コーナーは占有率の大きさから韓国の書店らしさが感じられる ▶



2.大手チェーン / 独立系書店の動き

①教保文庫 光化門店



応援広告スペースや
顧客が写真撮影できるスペースもあり、
商品購入以外の体験スポットもあった。

◀ ノーベル文学賞を受賞した
韓江氏へのお祝いコメント

雑貨はLOFTのようなコーナーが売場の一角を占め、
専門店クラスの品揃えと陳列がされていた。



隣接するスターバックスは満席状態 ▶



2.大手チェーン / 独立系書店の動き

②ARC N BOOKS ロッテワールドモール店

店舗入口から雑貨やグッズを大々的に展開していた。

→集客や店舗誘引のフックとして雑貨を有効的に活用している。



「BOO RABONG」(LINE社のキャラクターグッズ)のPOP UP SHOP

※POP UPは定期的に入替を実施

消化仕入方式の販売と推察される



2.大手チェーン / 独立系書店の動き

③鐘路書籍 鍾路店

売場の一等地では書籍と雑貨を組み合わせた展開で商品訴求を実施。

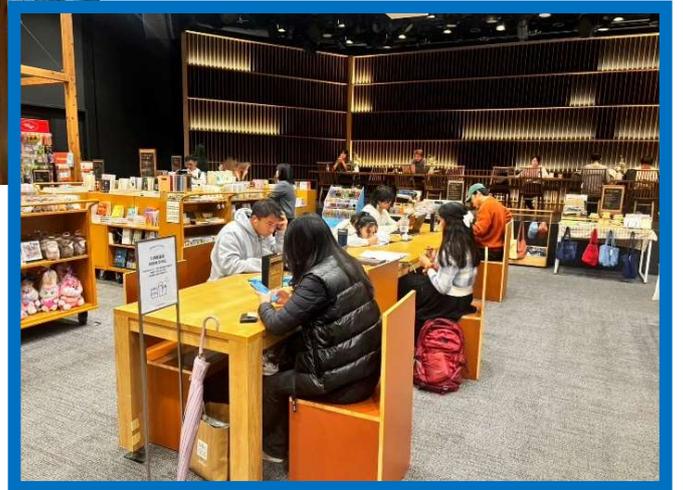
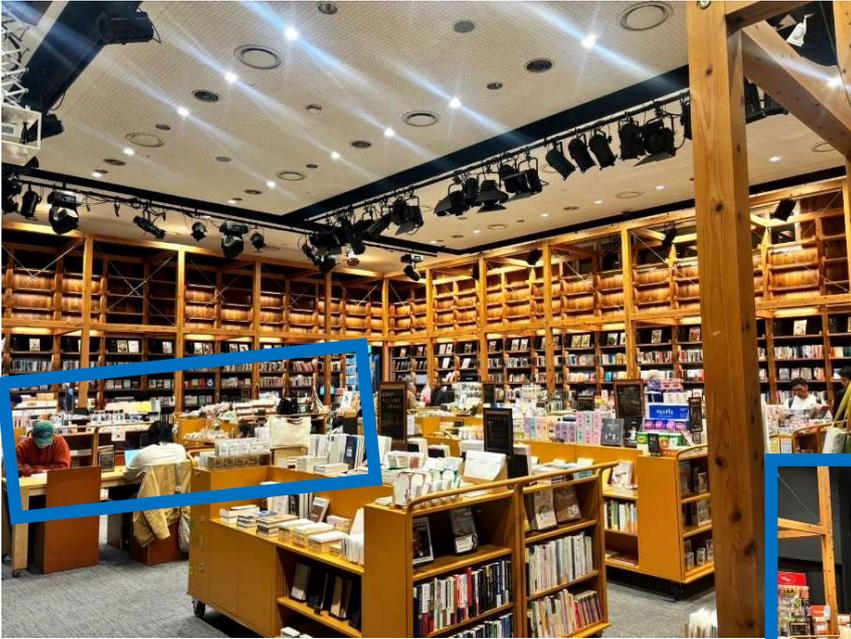
BOOK + 雑貨の売場展開・訴求は各店舗で進んでいた印象を受けた。



2.大手チェーン / 独立系書店の動き

④ARC N BOOKS 新村店

売場中央にテーブルを設置し、仕事や勉強をする方の姿も見受けられた。カフェでの飲食展開だけではなく、売場の中にスペースを作ることでコミュニティ化が進んでいた。



3.全体を通じて

トレンドを知る	大手チェーンを中心にBOOKだけではなく 雑貨の展開が強化され、お客様の目を引く動きが進んでいた
文化・歴史を学ぶ	老舗書店でもアイテムの複合化やコミュニティ化が 進んでいた韓国の商慣習や収益構造について 現地書店の声と共に知ることができた
図書館を知る	地域との連携や読書啓蒙に関する取組を知ることができた 特に読書支援という点では、書店と連携した動きや 制度について学ぶことができた



2024年度視察セミナーの開催報告は以上です。 来年度も視察セミナーを検討しております。訪ねてみたい店舗様や視察先がありましたら、ぜひ事務局までお声をお寄せください。

今後の活動予定

◆ 2025年度 総会

2024年度の書店研究会の活動実績および2025年度の活動方針などのご報告をいたします。2/19開催予定です。詳細が決まり次第改めてご連絡いたしますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

※ご意見・ご要望はこちらまでお願いします※

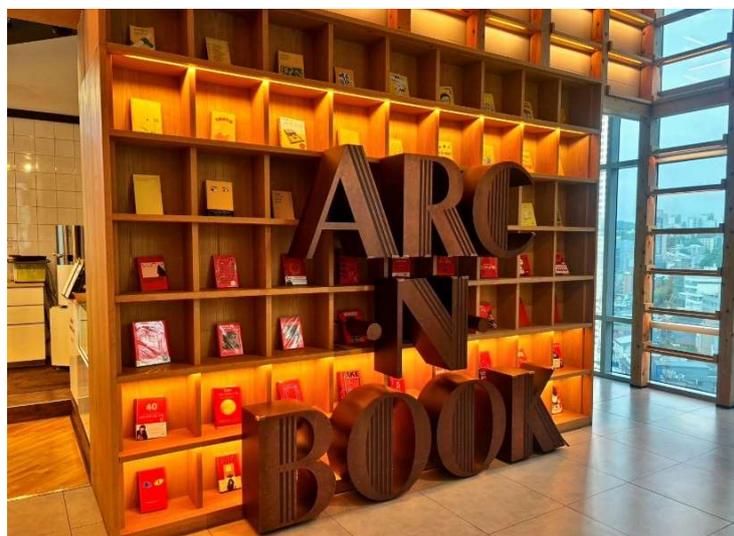
書店研究会 事務局（日販ストアソリューション課内） E-mail ryutsu-gakuin@nippan.co.jp

〒101-8710 東京都千代田区神田駿河台4-3 TEL. 03-3233-4791 FAX. 03-3233-2501

- ①ARC・N・BOOK 新村店 ④スターダスト ⑦アラジン 江南店 ⑩アジア出版文化情報センター
 ②弘益文庫 ⑤教保文庫 光化門店 (本店) ⑧ピョルマダン図書館 (知恵の森)
 ③ソウル図書館 ⑥鐘路書籍 鐘路店 ⑨ARC・N・BOOK ⑪韓国国会図書館
 ロッテワールドモール店(本店)

①ARC・N・BOOK 新村店 (ソウル特別市 西大門区 滄川洞 30-1, 百貨店 12F、営業時間10:30~22:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ソウル市内に12店舗を構えるチェーンで、内装や陳列に工夫を凝らした店舗が特徴。 ・新村店は1階にはIKEAやアパレルショップを備える現代百貨店U-PLEXの12階にあり、若者が集まる。 ・カフェが併設されており、カフェ利用者が使用できるテーブルが店舗内にも備わっており、カフェ利用者を呼び込めるようになっている。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン性が非常に素晴らしい書店でした。雑貨の比率が高いと感じました。



店内はさほど広くなく、書籍は壁沿いの棚に面陳を混ぜながら展開。



雑貨は店内中央のワゴン棚で手に取りやすく展開されていた。



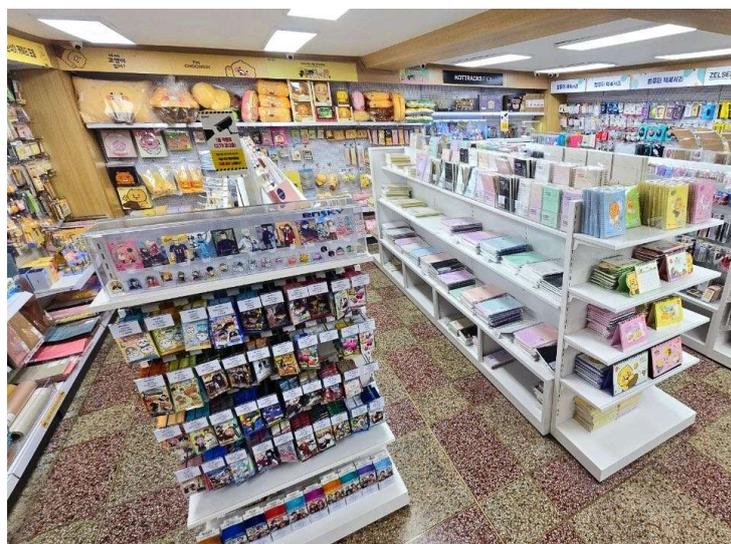
自由に使用できる机と椅子は勉強する学生でほぼ満席。奥の座席がカフェ利用者のスペースとなっている。

②弘益文庫 (ソウル特別市 西大門区 滄川洞 18-49 地下1~3F 営業時間9:00~21:30)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・1957年開業、2012年に地域開発により廃業の危機もあったが、市民の活動によって生き残った。地域に根ざした書店であるものの、内装は新しくリニューアルされ、トレンドの雑貨も置かれている。 ・人気大学が隣接する学生街のため、2階はほぼ学参、3階も資格関連の書籍が多くを占めている。 ・店内はさほど広くないが、平台や面陳をせず棚挿ししているため、品揃えが充実している。 ・各階にカウンターがあり、日本と同じく客注管理業務を行っていた。
----	---



学参や資格関連書籍が並ぶ2、3F



ファンシーな韓国キャラクターグッズや、日本アニメグッズが並ぶB1F

③ソウル図書館

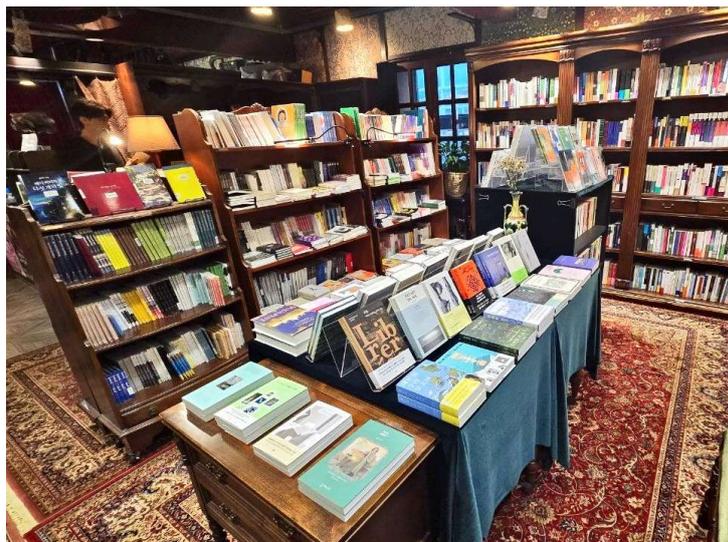
(ソウル特別市 中区 太平路 1街31 地下4~5F 営業時間平日9:00~21:30 土日9:00~18:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ソウル市庁舎を図書館に改装し、2012年に図書館としてオープン。平日は約50,00人、週末は約10,000人が訪れる。 ・1.2階の一般資料室の他に、3階は旧市庁舎の歴史展示や復元された市長室、4階は30数カ国の大使館などから寄贈された世界資料室となっている。 ・蔵書は20万冊に及ぶ。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・植民地時代の遺構を保存している最上階には、韓国における複雑な対日感情も感じられた。



④スターダスト (ソウル特別市 鍾路区 西宗安楼5路5-7 3F 営業時間12:00~19:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・アンティークな店内で、カフェ併設の独立系書店。ドリンクを頼むことで席を使用できる仕組み。 ・一般書よりも芸術関連が多く取り揃えられている。店内は狭いが、什器や陳列に工夫がされており、本は探しやすいようになっている。 ・ふらっと立ち寄るようなお客さんは呼び込めないが、利用客のSNSやブログの投稿により、若者間で広まっている様子。また、かなり静かな雰囲気のため、本好きのリーダーが立ち寄るのではないかと。
----	--



路地裏にあり入り口はわかりにくい
アングラな雰囲気のお店



店内奥にあるカフェ利用者向け読書スペース

⑤教保文庫 光化門店 (ソウル特別市 鍾路区 鍾路1街 地下1~1F 営業時間9:30~22:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国NO.1の大型チェーンで41店舗展開している。光化門店は本店。オンライン書店も運営しており、売上の4割を占めている。 ・店内はかなり広く、約200万冊と韓国随一の品揃えとなっている。日本のナショナルチェーンのように、ジャンルでしっかりと分けられていた。またCD・DVDをはじめ、文房具・雑貨店、電子機器店、カフェ・軽食店なども入店しているため、平日16時でもかなりの人で賑わっていた。 ・記念写真を撮れる機械や回転寿司のように書籍が流れる台、フレグランスが充満していたりと、来た人が楽しめるよう施設や什器に工夫がされていた。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の最大手となる書店を視察する事が出来て良かった。



⑤教保文庫 光化門店



日本の書籍コーナー
他にも漫画やジブリなど日本の作品が販売



若者で賑わうCD/DVDコーナー

⑥鐘路書籍 鍾路店 (ソウル特別市 鍾路区 公平洞 70 モールB2F 営業時間10:00~22:00)

特徴

・13店舗展開する韓国NO.3の書店。
1907年開業と韓国で最も古い書店。2002年に一度閉店したが、再度同じ場所にオープンした。鍾路店は本店。

・カフェが併設され、文具/雑貨やCD/DVDも豊富に取り揃えられている。また、大型読書テーブルやタワーを取り囲む高さ5mの本棚空間もあり、現代風に生まれ変わっている。



地下鉄から直通の入口前は待ち合わせスペースとして緑豊かな空間が広がっており、待ち時間に立ち寄れる立地である。

⑦アラジン中古書店 江南店 (ソウル特別市 江南区 駅三洞 814-6 B1F 営業時間9:30~22:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン書店で有名なアラジンが、オフライン書店として中古書店をオープン。国内に55店舗展開している。 ・古本屋のイメージを覆す洗練されたインテリアと販売システムで、若者のSNSやブログで人気を広まっている。また、オリジナルのトートバッグが人気で、購入するためにわざわざ来店する人もいるそう。 ・おおよそ定価の7割引ほどで販売されており、加えてクーポンやポイントによるサービスも豊富。
----	---



入口の狭い階段に反して店内はかなり広い。高い棚がずらっと並んでいる。

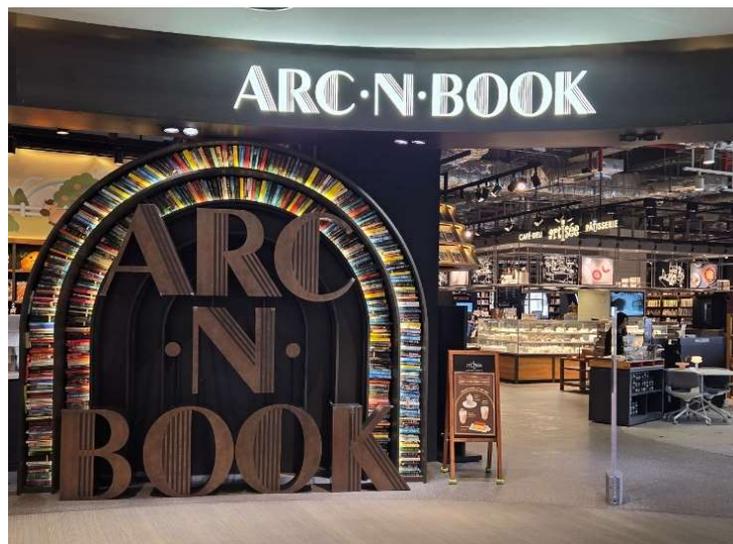
⑧ピョルマダン図書館 (ソウル特別市 江南区三成洞 159 営業時間10:30~22:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・コエックスモールという巨大なショッピングモールの中心に位置。モールを運営するスターフィールドが集客装置として展開しており、図書館としての機能はない。 ・写真映えする大きな本棚とお洒落な空間から観光客と思われる外国人が多く、話題性・集客力は抜群である。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・観光スポットとしての本の新しい価値観を見る事ができた。



⑨ARC・N・BOOK ロッテワールドモール店
 (ソウル特別市 松坡区 新川洞 29, モール 4F 営業時間9:30~22:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・本店ともあり、新村店よりも広く品揃えが充実していた。同じチェーンであるが、什器や内装が大きく異なり、印象ががらりと変わる。 ・お洒落な店舗であるが、学参の陳列スペースが十分にあり、またファンシーな韓国キャラクターグッズも大きく展開されており、コンセプトよりも売れるもの重視で揃えている。
----	---



アーチ状の本棚が特徴。
 こちらの店舗も中央のテーブルには雑貨が並ぶ。



カフェスペースも併設。

⑩アジア出版文化センター/知恵の森 (京畿道 坡州市 文発洞 524-3 営業時間9:00~19:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国唯一の出版文化産業団地で、出版・デザイン・印刷・流通・映像・芸術といった文化・コンテンツ関連企業が一ヶ所に集まる坡州。その中心に位置するセンター。 ・中にある知恵の森は、文化体育観光部の後援を受けて造成された図書館。有名な教授や出版社、書店からの寄贈本が展示されている。 ・多目的ホールや閲覧スペース、ゲストホテルも備わっており、本の重要性和価値を再認識させてくれる。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・パジュは前回の視察からは考えられないくらいの方がいたことに驚きました。 ・日本では考えにくい「創られた都市」で、なぜこれがうまくいったのかが知りたかったが、その点では情報が不足していた。



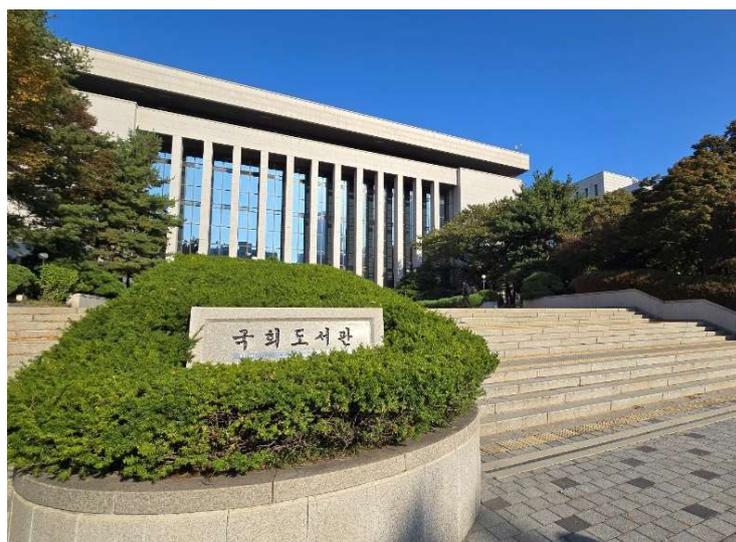
⑩アジア出版文化センター/知恵の森



新品を販売する書店も。
ジャンルは絵本や青少年向けの政治社会などが多く見られた。

⑪韓国国会図書館 (ソウル特別市永登浦区 議事堂路1 開館時間 月～金9:00～20:00、土・日9:00～17:00)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・約60年の歴史があり、韓国国内で発行される本は全て1冊ずつ所持する韓国最大の図書館。 ・訪問者数は1日平均2,000人。他国の時事情報を要約した資料もあり、国会議員の情報収集場所としても機能する。
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国会図書館と見比べてみたいと感じました。 ・国会図書館にはなかなか入れる機会はないと思いますので貴重な経験でした。



アジア太平洋の書籍を取り揃えたコーナー



各国からの贈呈品を展示